

【外国語科】 コミュニケーション 英語発展	教科書	英検準2級総合対策教本 改訂増補版 (旺文社)			
	副教材	使用しません (授業プリントなどを適宜利用)			
履修学年	第3学年(進路)	履修形態	必修 選択	履修単位	2単位

学習目標 (授業を通して、身に付ける力)

- ◇四年制大学等への進学に対応できる英語力を養う。
- ◇実用英語技能検定準2級以上に合格することを目標とする。

学習方法 (授業の進め方や工夫点など)

- ◇各章毎にまとめられている事項を正しく理解し、検定2次試験の面接対策までの出題意図を理解しながら学習を進めます。
- ◇教科書以外にも練習問題プリントなどを適宜利用することにより、予習・復習がスムーズにできるように進めます。課題の提出は必須です。

学習計画 (考査は単元毎に、又は単元内のパート毎に実施します。)

学期	単元	教科書の項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	第1章	1 動詞・時制・態 2 助動詞 3 仮定法 4 不定詞・動名詞・分詞	・構文を含めた文法事項を理解し記憶する。英語の規則を深く学ぶ。	積極性 パフォーマンス 小テスト、課題等 中間考査	A BC AD CD
	第1章(続き)	5 関係詞 6 比較 7 名詞・代名詞・冠詞 8 形容詞・副詞 9 前置詞・接続詞 10 特殊な構文	・文法事項の最後に、英語独特な特殊構文について触れる。様々な面から語彙を増やす。	積極性 パフォーマンス 小テスト、課題等 期末考査	A BC AD CD
二学期	第2章～第5章	単語・熟語 会話 長文読解 英作文	・定型的な会話表現、並べ替えを中心にした英作文、表やグラフ、パンフレット類からの情報の読み取りを行う。	積極性 パフォーマンス 小テスト、課題等 中間考査	A BC AD CD
	第6章・第7章	会話のリスニング・一般文のリスニング	・リスニングのコツと、学習方法について学ぶ。	積極性 パフォーマンス 小テスト、課題等 期末考査	A BC AD CD
三学期	第8章 模擬試験	面接(2次試験) 模擬試験	・準2級以上の面接試験に対応できるよう、実践的な活動を行う。	積極性 パフォーマンス 小テスト、課題等 学年末考査	A BC AD CD

学習評価 (成績評価は、次の4つの観点から行います。) 考査点 [60] 点 : 平常点 [40] 点

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度(A)20点	外国語表現の能力(B)5点	外国語理解の能力(C)5点	言語や文化についての知識・理解(D)70点
評価の方法	それぞれの進路を見据え、目標設定をした上で授業へ取り組もうとしている。	並べ替え問題や英作文の問題に対応できる能力を身に付けている。 面接試験対策ができています。	様々なテーマの英語を聞いたり、読んだりして理解ができている。 英語を声に出して読むことができています。	文法事項を正しく理解できている。 英語を理解するのに必要な語彙を身に付けている。
評価の方法	・授業に対する積極性 ・課題、小テストへの取組状況 ・ファイル、ノート等の整理	・課題、補足プリントへの取組状況 ・面接練習の取組状況 ・パフォーマンステスト	・ALTによる質疑応答 ・音読テスト等への取組状況 ・定期考査 ・パフォーマンステスト	・課題、小テストへの取組状況 ・定期考査

留意点 (担当者からのメッセージ)

- ◇必ず目標を立て、計画的に学習できるようにしてください。
- ◇進路の実現、検定の合格を目指して頑張りましょう。

【地理歴史科】		教材	要点整理 ゼミナール日本史（浜島書店）		
日本史総合演習		副教材	なし		
履修学年	第3学年（進路）	履修形態	必修 選択	履修単位	4単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇「日本史B」の内容を基に発展的な学習を行い、知識・理解の定着を図る。
- ◇「日本史B」の基礎的な内容をもとに進学に対応した学力を養成する。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇整理プリントを使い、要点が理解しやすく復習にも活用させていく。
- ◇問題プリントを使用し知識の活用を図る。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	近世	幕藩体制の成立と展開	・幕藩体制の下で産業や交通の発達が金融制度の確立などとの関連で発展したことを考察する。	小テスト ノート提出 授業態度 中間考査	A AC ABC BCD
		幕藩体制の動揺	・幕藩体制が動揺していく過程を見ながら近代への展開を理解する。	小テスト ノート提出 授業態度 期末考査	A AC ABC BCD
二学期	近代	近代国家の成立	・近現代史における日米関係と明治政府が目指した支配体制を理解する。 ・開国がその後の日本に与えた影響を考える。	小テスト ノート提出 授業態度 中間考査	A AC ABC BCD
		二つの世界大戦とアジア	・世界情勢と2つの大戦の関わりについて考察し、大戦が世界に与えた影響を理解する。	小テスト ノート提出 授業態度 期末考査	A AC ABC BCD
三学期	現代	現在の世界と日本	・占領下の日本の実情と戦後の経済発展について理解する。	小テスト ノート提出 授業態度 学年末考査	A AC ABC BCD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います） 考査点 [70] 点：平常点 [30] 点

	関心・意欲・態度 (A) 20点	思考・判断・表現 (B) 10点	資料活用の技能 (C) 10点	知識・理解 (D) 60点
評価の観点	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとしている。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・授業態度 ・ノートの整理 ・小テスト	・定期考査における記述解答 ・理論的な口述返答	・授業中の質疑応答 ・授業プリントの記入内容 ・定期考査	・定期考査

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇進学希望の生徒を対象とした授業を展開します。歴史を知り、その善悪を考えることで今後の人生に活かしてほしいと思います。歴史は人生の先輩から学び、考えるものです。

【理科】 化学	教科書	改訂 新編 化学（東京書籍）			
	副教材	ニューサポート 改訂 新編化学（東京書籍） スクエア最新図説化学（第一学習社）			
履修学年	第3学年（進路）	履修形態	必修 選択	履修単位	4単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇ 身近な生活や社会で利用されている物質とその変化を、科学的な視点で探究し、理科の見方や考え方を身に付ける。
- ◇ 実験や観察に対して、見通しをもって予想や仮説を立て、科学的な探究に必要な資質・能力を身に付ける。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇ 教科書、プリント、視覚教材等を活用し、視覚的にイメージしやすい授業を展開します。
- ◇ 実験や観察を行い、理科の醍醐味である「なぜだろう」という疑問をもち、考える授業を行います。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	化学基礎の復習 1 物質の状態	周期表、化学結合、物質質量と化学反応式 1 物質の状態 3 溶液の性質	・化学基礎で学んだ事項の復習をする。 ・状態変化における熱エネルギーの出入りと、沸点、融点と分子間力の関係について理解する。 ・溶媒と溶液の性質の違いを理解する。	授業態度 ノート 課題・実習 中間考査	A A BC BCD
	2 化学反応とエネルギー	1 化学反応と熱・光 2 電池と電気分解	・化学変化に伴うエネルギーと、電気エネルギーの関係について理解する。	授業態度 ノート 課題・実習 期末考査	A A BC BCD
二学期	4 無機物質	2 非金属元素の単体と化合物 3 典型金属元素の単体と化合物	・非金属元素の性質や反応、身の回りでの用途を理解する。	授業態度 ノート	A A
	5 有機化合物	4 遷移元素の単体と化合物 1 有機化合物の特徴と構造 2 炭化水素	・典型金属元素、遷移元素の性質や反応、身のまわりでの用途を理解する。 ・有機化合物の一般的な特徴について理解する。	課題・実習 中間考査	BC BCD
	5 有機化合物	3 アルコールと関連化合物 4 芳香族化合物	・有機化合物の特徴や分類、化学式の決め方、反応のしくみなどについて理解する。	授業態度 ノート	A A
	6 高分子化合物	5 有機化合物と人間生活 1 天然高分子化合物 2 合成高分子化合物 3 高分子化合物と人間生活	・天然高分子化合物および合成高分子化合物の構造や反応、利用例などを理解する。	課題・実習 期末考査	BC BCD
三学期	3 化学反応の速さと平衡	1 化学反応の速さ 2 化学平衡 3 水溶液中の化学平衡	・化学反応の速さの表し方と速さを決める要因、化学平衡における量的関係や平衡の移動について理解する。	授業態度 ノート 課題・実習 学年末考査	A A BC BCD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います） 考査点 [60] 点：平常点 [40] 点

	関心・意欲・態度 (A) 20点	思考・判断・表現 (B) 25点	観察・実験の技能 (C) 30点	知識・理解 (D) 25点
評価の観点	身近な生活や社会と結び付けて物質とその変化に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	物質とその変化について、科学的に探究する力を身に付け、得られた結果をレポート等での確に表現している。	科学的な探究に必要な観察や実験に関する基本的な技能を身に付け、得られた結果を正確に記録、整理するための技能を身に付けている。	物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則を、物質の性質や反応と結び付けて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業の取り組み状況 ・ノート記述	・実習レポートや課題の記述内容 ・定期考査	・実習レポートや課題の記述内容 ・実験や実習の取り組み状況 ・定期考査	・定期考査

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇ 化学では知識を習得し、それを活用して思考することが大切です。小テストや日々の授業で少しずつ知識を定着していきましょう。
- ◇ 「なぜだろう」と疑問をもち、その原理を考える過程を楽しみましょう。

【数学科】		教科書	数学活用（実教出版）		
数学活用		副教材	使用しません（随時プリント配付）		
履修学年	第3学年(地域)	履修形態	必修 ・選択	履修単位	2単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇数学について、具体例をもとに「身の回りの数学」、「社会生活と数学」、2つの観点から様々な事を学ぶ。
- ◇数学のおもしろさや便利さを体験しながら、数学的な見方や考え方を身に付ける。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇この授業最大のねらいは、「単に計算問題ができるようになる」ということではなく、数学的に考えることの良さを知り、それを「楽しみ、役立てる」ことにあります。授業を通して、「数学」を理解・実感し、「数学」を活用していく中で、「生きる力」を培ってください。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	既習数学を振り返る①	身の回りの計算・図形	・最終学年である今、これまでに学習してきた数学的知識や技能について、再確認することで定着を目指す。	課題 出席状況、提出物 中間考査	D AC BCD
	身の回りの数学	いろいろな場合の数 数学的な表現のくふう	・操作的、体験的な内容を中心に学習することで、公式や計算をあまり意識せずに数学を楽しみ、親しむ。	課題学習 出席状況、提出物 期末考査	B AC BCD
二学期	既習数学を振り返る②	身の回りの計算・図形	・過去に学習した知識や技能について再確認をし、定着を目指す。	課題 出席状況、提出物 中間考査	D AC BCD
	社会生活と数学 数学の発展と人間の活動	経済と数学 コンピュータと人間の活動 数と人間	・日常生活の身近にある題材の学習を通して、数学が役立っていることを知る。また、数学を新たな視点から面白さを発見し、その良さを活用する。	課題学習 出席状況、提出物 期末考査	B AC BCD
三学期	数学活用のまとめ		・1、2学期に学習した内容についてふりかえり、自らの数学力が高まったことを確かめる。	課題 課題学習 出席状況、提出物 学年末考査	D B AC BCD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います） 考査点 [70] 点：平常点 [30] 点

	関心・意欲・態度 (A) 10 点	数学的な見方や考え方 (B) 30 点	数学的な技能 (C) 30 点	知識・理解 (D) 30 点
評価の観点	数学と人間のかかわりや数学の社会的な有用性に関心をもつとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学と人間のかかわりや数学の社会的な有用性を通して、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学と人間のかかわりや数学の社会的な有用性について理解している。
評価方法	・出席状況等 ・授業中の姿勢、態度	・課題学習での取組 ・定期考査	・ファイル等の提出物 ・定期考査	・課題 ・定期考査

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇9月中旬までは進路実現に向けた取組のうち、数学的知識や技能が必要である学習を授業の中に取り入れます。
- ◇進路目標の変更や新たな希望が生じた場合はすぐに担当者に相談してください。

【商業科】 課題研究	教科書	使用しません			
	副教材	必要に応じて、問題集、プリント使用			
履修学年	第3学年(地域)	履修形態	必修・選択	履修単位	3単位

学習(到達)目標 (授業を通して、身に付ける力)

◇商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

学習方法 (授業の進め方や工夫点など)

◇授業は、自ら設定した課題、目標に基づき年間学習計画をたて、毎時間の学習を行う。

学習計画 (どのような内容を、どの時期に学習するのか)

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	・課題設定 ・年間計画作成 ・目標達成に向けた学習 ・1学期の反省	・簿記会計分野 ・珠算・電卓分野 ・情報処理分野 3つの分野の全商検定取得を目指して学習を行う。	・課題設定を行い、年間計画を作成する。 ・目標達成に向けた活動を行い、学習日誌の記入を毎時間行う。	授業態度 年間計画 学習日誌 確認テスト ファイル提出 出席状況	A B C C C A
	・目標および学習計画の見直し ・目標達成に向けた学習 ・2学期の反省 ・学習報告書の作成		・1学期の反省をもとに、目標および学習計画の見直しを行う。 ・目標達成に向けた活動を行い、学習日誌の記入を毎時間行う。	授業態度 学習日誌 確認テスト ファイル提出 出席状況	A C C C A
三学期	・学習報告書の作成		・1年間の学習内容をまとめる。	学習報告書 授業態度 学習日誌 ファイル提出 出席状況 検定試験	AB A C C A D

学習評価 (成績評価は、次の4つの観点から行います) 考查点 [考查なし] 点: 平常点 [100] 点

評価の観点	関心・意欲・態度(A) 30点	思考・判断・表現(B) 30点	技能(C) 20点	知識・理解(D) 20点
		自らの進路と関連させて課題および目標の設定をしようとしている。さらに、課題解決および目標達成に向けた方法を自ら工夫し、計画・実行・改善しようとしている。	問題解決や目標達成に必要な情報の収集、計画の設定・改善および学習活動の工夫に関する思考や判断ができています。	問題解決や目標達成に必要な技能を身に付けるとともに、課題や目標の成果を適切に表現できている。
評価方法	・資格、検定級の選択 ・目標および計画の設定 ・学習日誌の記入内容 ・授業での取り組み	・計画の改善、見直しの状況 ・適切な教材の選定	・確認テスト ・学習日誌の記入内容 ・学習報告書の記入内容	・資格の合否および得点

留意点 (担当者からのメッセージ)

◇自ら設定した目標に向かって、学習を行っていきます。積極的に学習してください。

【商業科】 簿記	教科書	新簿記 新訂版（実教出版）			
	副教材	完全段階式 標準検定簿記問題集（東京法令出版）			
履修学年	第3学年(地域)	履修形態	必修・選択	履修単位	2単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を取得する。
- ◇帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力を身に付ける。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇各単元のテーマを解説し、練習問題を解きながら進めます。
- ◇学習到達度を測るため、單元ごとに確認テストを行います。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	單元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	決算（その1）	決算整理（その1） 8桁精算表	・決算整理について取り扱い、決算に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・8桁精算表の作成に習熟する。	授業の取組 問題集の提出 確認テストなど 中間考査	AB AB CD BCD
		帳簿決算と財務諸表の作成	・財務諸表について取り扱い、決算に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・検定試験を受験する。	授業の取組 問題集の提出 確認テストなど 検定試験 期末考査	AB AB CD D BCD
二学期	決算（その2）	ア決算整理（その2） イ財務諸表の作成（その2）	・正しい損益計算を行うために、他の整理事項や別の方法による記帳法の知識と技術を習得する。	授業の取組 問題集の提出 確認テストなど 中間考査	AB AB CD BCD
	取引の記帳 本支店会計	特殊な商品売買の取引 特殊な手形の取引 本支店の取引 本支店の財務諸表の合併	・商業売買や手形の特殊な取引に関する知識と技術を習得する。 ・支店会計が独立している場合の記帳法および、本支店の財務諸表の合併に関する知識・技術を習得する。	授業の取組 問題集の提出 確認テストなど 期末考査	AB AB CD BCD
三学期	演習		・習得した簿記の一巡の流れを、確実なものとし、実践で使えるようにする。	授業態度 問題集の提出 学年末考査	AB AB BCD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います） 考査点 [60] 点：平常点 [40] 点

評価の観点	関心・意欲・態度 (A) 20点	思考・判断・表現 (B) 20点	技能 (C) 30点	知識・理解 (D) 30点
	評価の方法	<p>企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指し、意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身に付けようとしている。</p> <p>・学習活動への参加態度 ・問題集、プリントの提出</p>	<p>企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決を目指して自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。</p> <p>・授業中の質疑応答 ・問題集、プリントの記帳内容 ・定期考査</p>	<p>企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を適切に表現している。</p> <p>・定期考査 ・確認テスト ・問題集、プリントの記帳内容</p>

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇簿記の学習は、問題を自ら解き、理解できているか否かを確認しながら、一步一步前進する姿勢が大切です。
- ◇全商簿記実務検定試験を受験します。

【商業科】 情報処理	教科書	情報処理 新訂版 (実教出版)			
	副教材	全商情報処理検定試験模擬問題集 3級 (東京法令出版)			
履修学年	第3学年(地域)	履修形態	必修・選択	履修単位	3単位

学習(到達)目標 (授業を通して、身に付ける力)

- ◇ビジネス社会に必要な情報処理機器の利用をおよび活用に関する基礎的な知識と技術を習得し、情報活用に関する興味・関心を深める。
- ◇コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなどに関する基礎的な知識を習得し、目的に応じた機器の利用ができる。

学習方法 (授業の進め方や工夫点など)

- ◇講義と実習を通して、コンピュータやソフトウェアに関する基礎的な知識の習得を目指す。

学習計画 (どのような内容を、どの時期に学習するのか)

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	情報の活用と情報モラル 情報通信ネットワークとセキュリティ管理	ビジネスと情報情報モラル ハードウェアとソフトウェア 情報通信ネットワークの概要 ビジネス情報の検索と収集 ビジネス情報の受信と送信 セキュリティ管理の基礎	・情報処理、コンピュータに関係する用語の理解を深め、特徴や役割について学習する。 ・著作権、プライバシーの保護やモラルなど、情報を取り扱う際に留意すべき点を学習する。 ・情報通信ネットワークの概要、ビジネスにおけるインターネットの様々な利用方法、セキュリティ管理の方法について学習する。 ・検定試験を受験する。	授業の取組 実技テスト 問題集の提出 ノート提出 検定試験 期末考査	A CD AB A D BCD
二学期	ビジネス情報の処理と分析 ビジネス文書の作成	基本的な表の作成 関数を利用した表の作成 グラフの作成 情報の整列・検索・抽出 ビジネスと統計 ビジネス文書と表現 図形と画像の活用 基本文書の作成 応用文書の作成	・表計算ソフトの基礎的・応用的な操作を学習する。 ・関数を用いて、さまざまなビジネス情報を加工し、有用なビジネス情報を導き出す技術を学習する。 ・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ・ワープロの機能を利用して、表やグラフを含む文書の作成に関する知識・技能を学習する。	授業の取組 実技テスト 問題集の提出 ノート提出 期末考査	A CD AB A BCD
三学期	プレゼンテーション	プレゼンテーションの技法 ビジネスとプレゼンテーション	・プレゼンテーション活動の目的や方法について学習する。	授業の取組 問題集の提出 ノート提出 学年末考査	A AB A BCD

学習評価 (成績評価は、次の4つの観点から行います) 考查点 [60] 点 : 平常点 [40] 点

	関心・意欲・態度(A) 20点	思考・判断・表現(B) 20点	技能(C) 30点	知識・理解(D) 30点
評価の観点	情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを旨として主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けようとしている。	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。
評価方法	・学習活動の参加態度 ・課題 ・問題集の記入内容 ・ノート	・問題集の記入内容 ・課題 ・定期考査	・実技テスト ・定期考査	・定期考査 ・実技テスト ・検定試験

留意点 (担当者からのメッセージ)

- ◇ 全商情報処理検定試験を受験します。

【地域】 ボランティア	教材	使用しません			
	副教材	ボランティア手帳			
履修学年	第3学年	履修形態	任意	履修単位	増加1単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇体験的・実践的な活動の中で、社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを理解する。
- ◇地域貢献等を通し社会奉仕の精神を涵養し、自らのあり方、生き方を求め自己実現をはかる一助とする。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇ 単位認定対象活動
ボランティア活動同意書・活動願が出され校長が認めた活動
 - a) ボランティアクラブ・生徒会で行う活動
 - b) 学校に依頼があり、校長の認めた事業
 - c) 個人・他団体で行うボランティアで校長が単位の認定を認めたもの

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	学習項目	主な学習活動
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアクラブ ・生徒会活動 ・学校に依頼があり、校長が認めた事業 ・個人、他団体で行うボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティア ・十津川村主催行事 ・災害ボランティア ・ボランティアに関する研修 （長期休業期間の活動も含む）
二学期		
三学期		

学習評価（成績評価は、行いません。）

評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ①ボランティア同意書・活動願をボランティアクラブ顧問に提出 ②活動後、現地担当者からボランティア手帳に証明印またはサイン受領 （生徒会、ボランティアクラブの活動の場合は、担当教員が証明） ③ボランティア手帳をボランティアクラブ顧問に提出 →認定台帳に認定単位時間（活動時間）を記入 →手帳は生徒に返却、認定台帳は教務部保管 ④年度末までに35単位時間（1750分）を満たせば、成績会議において教科「地域」、科目「ボランティア」として1単位を認定。
------	--

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇教員が引率しない活動については、自己の責任で行う。
- ◇ボランティアに参加する際には必ずボランティア手帳を携帯する。
- ◇服装等、準備物は個人で準備する。